

相模原市美術館基本構想

～さがみはらアートフィールド～

平成 28 年 5 月

相模原市

目 次

背景及び経緯

1 美術館の整備に向けた経過	2
2 本市における美術環境の現状分析	3

本編

1 美術館の理念と役割	
(1) 基本理念	4
(2) 基本方針	4
(3) 基本方針と事業の方向性	5
2 事業展開	
(1) 展開する事業	6
(2) 事業の方向性と展開する事業の関係性	6
(3) 展開する事業（詳細）	7
3 美術館の全体像	12
4 施設整備	
(1) 基本的な考え方	13
(2) 施設概要	13
5 運営・事業推進体制	
(1) 基本的な考え方	16
(2) 整備に向けた取組	16
(3) 運営における取組	17
6 広報の在り方	18
推進に当たって	19

背景及び経緯

1 美術館の整備に向けた経過

本市では、文化振興政策の一環として、美術環境に恵まれた地域特性や美術に関わる豊富な活動実績を生かし、市全体でアートをつくり、育て、学ぶ新たな拠点としての美術館の整備に取り組んでいます。

本市の文化振興政策

第3次総合計画(昭和61年)から現計画まで
・美術館整備、フォトギャラリー(写真美術館)整備
さがみはら文化振興プラン[平成22年から]
基本目標:

「はぐくむ」「つなぐ」
「つたえる」「すすめる」

【美術館の関連施策】

- ・文化施設の整備充実
- ・文化の担い手支援
- ・文化に触れる機会の充実
- ・特色ある相模原文化の発信 など

本市の美術環境に恵まれた地域特性

- 市内及びその周辺美術系専門教育機関
- ・市内：女子美術大学、桜美林大学、弥栄高校 など
 - ・周辺地域：多摩美術大学、東京造形大学 など
- アート系公共施設
- ・東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館[昭和61年]、藤野芸術の家[平成7年]、相模湖交流センター[平成10年]
- 街中のアートのスポット
- ・複数の私設美術館、ギャラリー、アトリエ・スタジオ(作品制作場) など
- * SUPER OPEN STUDIO への参加スタジオ数 23 箇所[平成27年]
- 美術関連組織・相模原芸術家協会 など
- 藤野地区・歴史的な背景を基にアーティストが多く居住

本市の美術に関わる豊富な活動実績

造形「さがみ風っ子展」[昭和54年から]
淵野辺公園などで実施。児童・生徒の作品約20,000点が展示される日本最大規模の野外児童作品展

本市収蔵美術品の活用

- ・収蔵美術品収集基金[昭和55年から]
- 収集及び寄贈などにより、絵画など313点(日本画53点、洋画40点、素描205点他)、写真2,618点(77シリーズ)[平成27年12月現在]
- 藤野ふるさと芸術村メッセージ事業[昭和63年から]

相模原市民ギャラリー[平成9年開館]
総合写真祭フォトシティさがみはら[平成13年から]
写真による相模原文化の創造と発信を行うため、国際的なフォトフェスティバルとして実施
市民約7,000名の署名による美術館設置要望書の提出[平成16年]
アートラボはしもと[平成24年開館]
市内の著名なアーティストの活動

広域交流拠点(橋本駅及び相模原駅)

相模原市広域交流拠点基本計画
[平成26年策定]

- ・橋本駅及び相模原駅周辺を核とした一体的拠点
 - ・相模原駅周辺：安心とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点
- 相模原市広域交流拠点整備計画(検討中)

美術館を取り巻く近年の活発な動き

大規模アートイベントの活況
地域活性化やまちづくりに寄与する美術館
美術館建築に対する新たな潮流
設置・運営などに関わる市民参加の拡大
美術館自体や企画展のテーマの広がり
カフェやショップなどの利用者サービスの拡充

相模原市美術館基本構想(答申)[平成26年2月 相模原市美術館基本構想検討委員会]

[基本理念] 相模原の未来へ向け、まちづくり、ひとづくり、ものづくりをおこなう文化創造の中心施設

- ・つくり、育て、学ぶ美術館
- ・自然と都市の共生を目指す美術館
- ・未来を生きる子どもたちのための美術館
- ・伝え、受け継ぐ美術館
- ・結びあう美術館
- * アートラボはしもとの活動の継続と相模原駅周辺地区への建設候補地の見直し

自然と都市が共生する本市全体でアートをつくり、育て、学ぶ
さがみはらアートフィールドの拠点(美術館)

2 本市における美術環境の現状分析

既存の美術関連施設・機能

施設	主な機能
相模原市民ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究：本市ゆかりのアーティストの画業などの調査研究 ・展示公開：自主企画展(年1回)、アートのスポット展示、市民文化祭(写真、日本画・洋画、書など)、総合写真祭フォトシティさがみはら ・教育普及：美術資料コーナー ・連携：相模原芸術家協会との連携事業など
アートラボはしもと	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究：大学との共同研究によるプログラム開発、シンポジウム、地域資源の調査・研究(ワークショップ広場) ・展示公開：学生企画展、大学連携プログラム(企画展など) ・教育普及：小学校・児童クラブなどとの連携事業、アウトリーチ、大学連携プログラム(ワークショップなど)、博物館学芸員実習プログラム ・連携：大学連携、アーティストとの連携(SUPER OPEN STUDIO)、商店街やロータリークラブなどとの連携
市立博物館及び民間倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・収集保存：収蔵美術品などの保管

現状の課題

- ・相模原市民ギャラリー(以下「市民ギャラリー」という。)の機能については、相模原芸術家協会との共催展や市民サークルによる作品展示など幅広く利用されており、利用ニーズが高くなっています。このため、絵画や写真などの収蔵美術品を常時展示・公開することができない状況です。
- ・市民ギャラリーの主催事業は、年1回の自主企画展(収蔵作品展)やミニ展示コーナー「アートのスポット」でのシリーズ展のみであり、発信力が弱くなっています。
- ・アートラボはしもとは、学生企画展やワークショップ、商店街との連携など、アートを活用した新たな事業展開を図り、着実な成果を上げていますが、暫定の施設を利用しているため、活動の継続に当たっては、恒常的な施設整備が必要です。
- ・15周年を迎えた「総合写真祭フォトシティさがみはら」(以下「フォトシティさがみはら」という。)の更なる事業の充実を図るための拠点施設の整備が必要です。
- ・市立博物館の美術品収蔵庫及び民間倉庫で収蔵美術品を保管していますが、いずれも収蔵品の保存スペースに余裕がなく、新たな収蔵場所の確保が必要です。また、展示の際には遠隔地から作品を運搬する必要があり、管理・保存や運搬費用における負担が大きくなっています。
- ・子育て世代において、美術活動への参加意向が高いにもかかわらず、実際の活動には、参加が見られないため、子どもたちとその親に対し、美術とのふれあいを提供することが求められています。
- ・市内の各地区において長年にわたり活発な美術に関わる取組が行われていますが、市域全体の美術活動に対する体系的な調査研究が十分でない状況です。現状での美術に関わる活動、人材及び資産を整理し、それぞれの活性化や活用を図るための連携や支援が望まれます。

アウトリーチ：美術館などが当該施設以外の場所において実施する美術教育や教育普及などのために行う事業

本編

1 美術館の理念と役割

(1) 基本理念

美術館の基本理念及び設立目的は、平成26年2月に相模原市美術館基本構想検討委員会により答申された相模原市美術館基本構想(答申)を尊重し、次のとおりとします。

[基本理念]
さがみはらの未来へ向け、
市民とともに、まちづくり、ひとづくり、ものづくりをおこなう
アートフィールドの拠点

[設立目的]

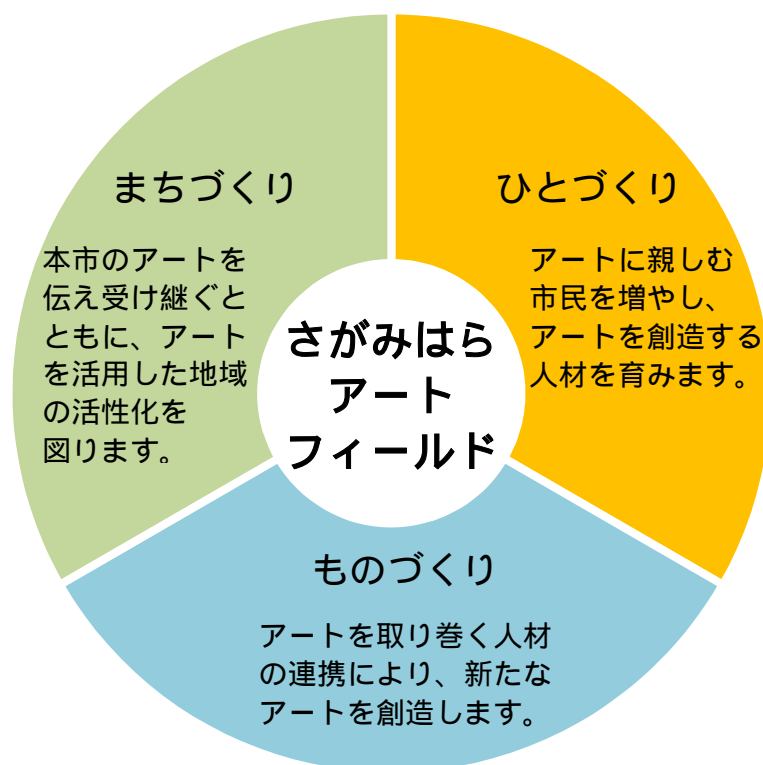
広く市民と時代に対して場を開き、自然と都市が共生する豊かな社会環境を目指し、地域の活性化に寄与するとともに、市の顔(シンボル)として文化的なアイデンティティを支え、現在進行形のアートや土地に根ざしたアートを発信し、相模原の夢ある未来の基盤を作りあげます。

相模原市美術館基本構想における用語の定義

- 「アート」 : 近現代美術をはじめ、コンテンポラリーアート、写真、映像、デザイン、建築、メディアアートなど幅広い分野を対象とする創造活動
- 「アーティスト」 : アートを行う人物
- 「アートフィールド」 : アートに関わる多様な活動を展開するエリア。相模原市美術館基本構想においては、自然と都市が共生する本市及びその周辺を意味します。

(2) 基本方針

美術館における事業展開の基本方針は、基本理念を踏まえ、次のとおりとします。



(3) 基本方針と事業の方向性

美術館において展開する事業の方向性は、基本方針を踏まえ、次のとおりとします。



ゲストキュレーター：特定の企画・調査のため、一定期間招へいされて展覧会を企画する人物

2 事業展開

(1) 展開する事業

美術館で展開する事業は、基本理念に基づき、事業の方向性を踏まえ、以下の5つの事業とします。各事業は、美術館を拠点として、施設内にとどまらず本市及びその周辺を含めたアートフィールドにおいて広く展開していきます。

調査・研究

収集・保存

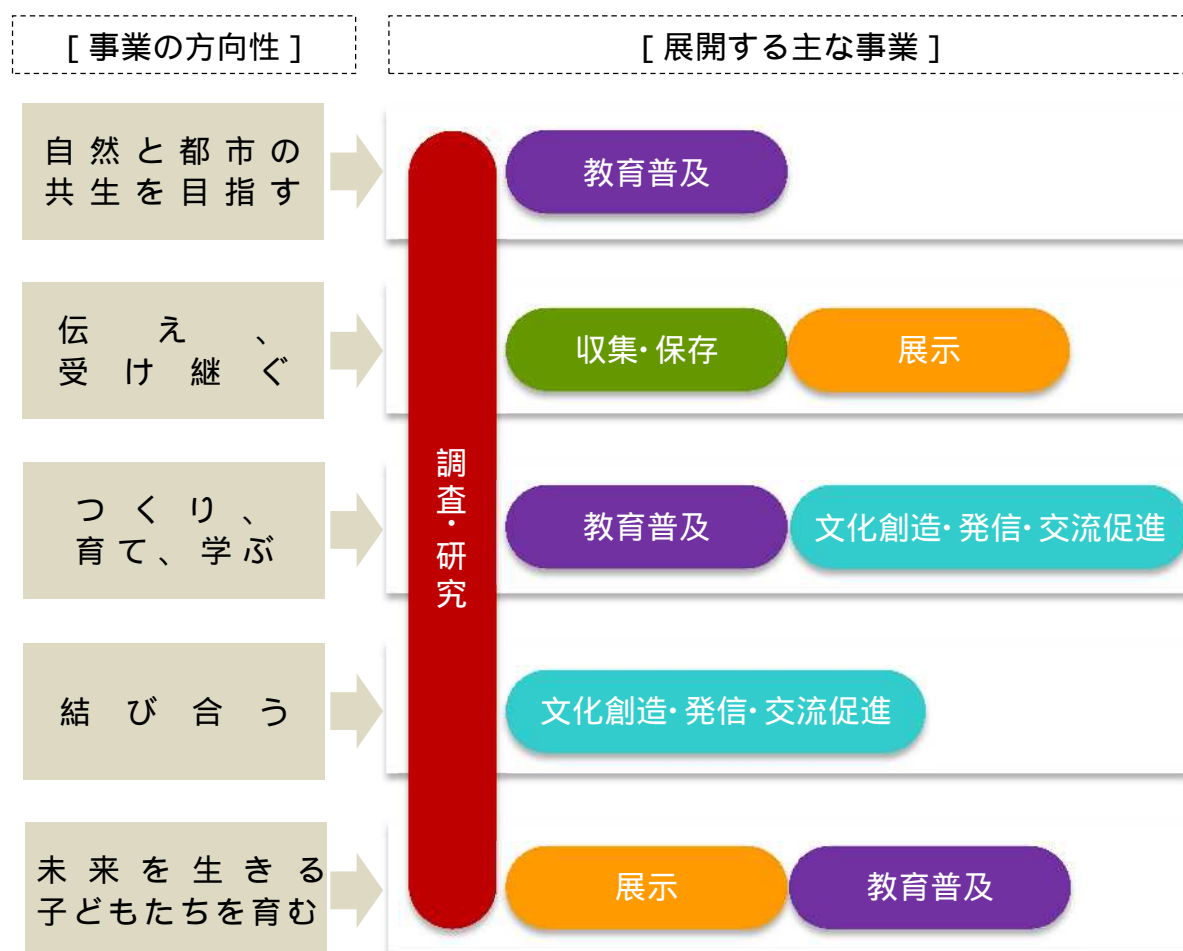
展示

教育普及

文化創造・発信・交流促進

(2) 事業の方向性と展開する事業の関係性

事業の方向性と展開する主な事業の関係性は、次のとおりとします。



(3) 展開する事業(詳細)

1 調査・研究

アート情報の集約拠点として、本市におけるアートに関する活動、本市ゆかりのアーティストや作品に関する情報、最新のアートの動向について調査し、美術館の全ての事業の基盤となる専門的な研究を行います。調査・研究の成果を生かし、広く市民に対し、展示や教育普及事業の展開を図ります。

[展開例]

- ・本市の美術史やアーティストに関する調査・研究
- ・絵画や写真などアートの動向に関する調査・研究
- ・美大生や若手アーティストなどによる市内でのアート活動の状況に関する調査・研究
- ・学校教育との連携に関する調査・研究 など

[想定される施設及び機能]

- ・学芸研究室
- ・書庫 など

[事例写真]

- ・本市ゆかりのアーティストの作品調査



- ・若手アーティストの活動調査(アートラボはしもと)



- ・アーティストや研究者による意見交換会
(アートラボはしもと)



- ・学生たちによる企画のプレゼンテーション
(市民ギャラリー)



本市全体で展開するアートの拠点としての機能を果たすため、本市ゆかりのアーティストの絵画や写真を中心に収集し、安全な環境の下で保存し、後世に継承します。

[展開例]

- ・本市ゆかりのアーティストの絵画や写真などの作品の収集・保存
- ・将来有望な若手アーティストの優れた作品の収集・保存
- ・本市で実施するコンテストの入賞作品の収集・保存
- ・美術作品に関連する資料(スケッチなど) の収集・保存
- ・調査・研究や事業の成果の記録及び保存 など

[想定される施設及び機能]

- ・搬入口
- ・トラックヤード
- ・荷解室
- ・収蔵庫 など

[事例写真]

- ・本市ゆかりのアーティストの作品



遠藤彰子「見つめる空」(本市収蔵品)



江成常夫「ニューヨークの百家族」(本市収蔵品)



岩橋英遠「北の海(陽)」(本市収蔵品)

- ・フォトシティさがみはら(市民ギャラリー)



- ・収蔵美術品展(市民ギャラリー)



より多くの市民に対し、アートに触れる機会を提供するとともに、アートへの関心を高めてもらえるよう、市内外からの多くの集客を見込める先進的かつ斬新な企画展を開催するとともに、アート作品の制作過程を公開するなどの取組も実施します。また、フォトシティさがみはらで育んできた写真文化など本市独自の美術文化を着実に後世に伝えるため、本市ゆかりのアーティストの写真や絵画などの作品を常時展示します。

[展開例]

- ・ 話題となる企画展や美術界の動向を反映した企画展、他の美術館などとの共同巡回展
- ・ アーティストの制作過程の公開展示
- ・ フォトシティさがみはらの受賞作品の展示
- ・ 江成常夫氏の収蔵作品(写真)の常設展示室での展示
- ・ 岩橋英遠氏などの収蔵作品(絵画)の常設展示室での展示
- ・ 美大生や若手アーティストなど、市民とアーティストとの協働により制作した作品の展示
- ・ 有望な若手作家を見いだすコンテスト など

[想定される施設及び機能]

- ・ 展示室(常設展示室、企画展示室)
- ・ 公開型スタジオ
- ・ 展示準備室
- ・ 展示備品庫 など

[事例写真]

- ・ 子どもも楽しむことができる展覧会
(市民ギャラリー)



- ・ 最新の動向を反映させた先進的な展覧会
(横須賀美術館「関野宏子」展)



- ・ フォトシティさがみはら入賞作品に関する
ギャラリートーク(市民ギャラリー)



- ・ 美大生や若手アーティストによる展示
(アートラボはしもと)



公開型スタジオ：アーティストが制作を行うための機能を有し、かつ、制作過程を公開したり、完成後に展示を行うことのできるスタジオ

子どもをはじめとした気軽に利用できる市民向けのプログラムから、より高度な技術を体得するための技術指導まで、多様なニーズに対応した教育普及事業を展開します。教育普及プログラムの開発に当たっては、本市の恵まれた美術環境を持つ地域特性を生かし、市内及びその周辺に集積する美術系大学や市内で活発に活動するアーティスト、学校などの多様な連携や参画を取り入れ、協働して取り組むプロジェクトとして推進します。

[展開例]

- ・ アートをテーマにした講演会、ワークショップや体験教室
- ・ プロのアーティストが指導する技術講座や人材育成プログラム
- ・ 未就学児や親子向けのアートプログラム・小中学校のカリキュラムに沿った鑑賞及び創作の支援
- ・ 市民によるボランティア活動への支援、育成プログラムの提供
- ・ 市内のアートに関わる活動を行う場や団体へのアウトリーチプログラム など

[想定される施設及び機能]

- ・ 講座室
- ・ ライブラリー
- ・ ワorkshop・スペース
- ・ 映像シアター
- ・ ボランティアルーム など

[事例写真]

- ・ 親子で学ぶ写真教室



- ・ ボランティアによる解説(市民ギャラリー)



- ・ 小学校の見学会(アトラボはしもと)



- ・ 造形「さがみ風っ子展」



美術環境に恵まれた地域特性を生かし、市内及び周辺の大学や学校、民間ギャラリーやアーティストと連携した展示や教育普及事業を、施設内だけでなく、市域全体の多様な場を使って展開し、広く本市におけるアートを発信します。事業の企画や運営に当たっては、市民、アーティストや学生などの多様な主体との連携や参画を取り入れ、協働して取り組むプロジェクトとして推進します。こうして生じた多様な交流を基盤とし、アーティストやデザイナーと企業とのマッチングを支援することにより、ものづくりの活性化を図ります。

〔展開例〕

- ・市内及び周辺の大学と連携したアートプロジェクト、展示や教育普及事業などの開催
- ・アーティストやデザイナーと地元企業とのマッチング、学生や若手アーティストなどの支援、新たな才能を発掘するコンテストなどのイベント
- ・アートを活用した地域活性化に係る取組
- ・医療や福祉、観光、スポーツなど異分野との連携による新たなアートの可能性の創造
- ・国内外のアーティストを招へいして、市内で創作活動を行ってもらう「アーティスト・イン・レジデンス」
- ・子どもたちが他都市や海外と交流を図るプログラム など

〔想定される施設及び機能〕

- ・企画展示室
- ・ワークショップ・スペース
- ・ボランティアルーム
- ・会議室
- ・情報発信コーナー
- ・交流スペース
- ・ミュージアムショップ、カフェ

など

〔事例写真〕

・橋本七夕まつりアート竹飾り(アートラボはしもと)



・藤野ぐるっと陶器市



・医師を講師としたカラフルなレントゲン写真をつくるワークショップ(アートラボはしもと)



・商店街の漫画広告(アートラボはしもと)



3 美術館の全体像

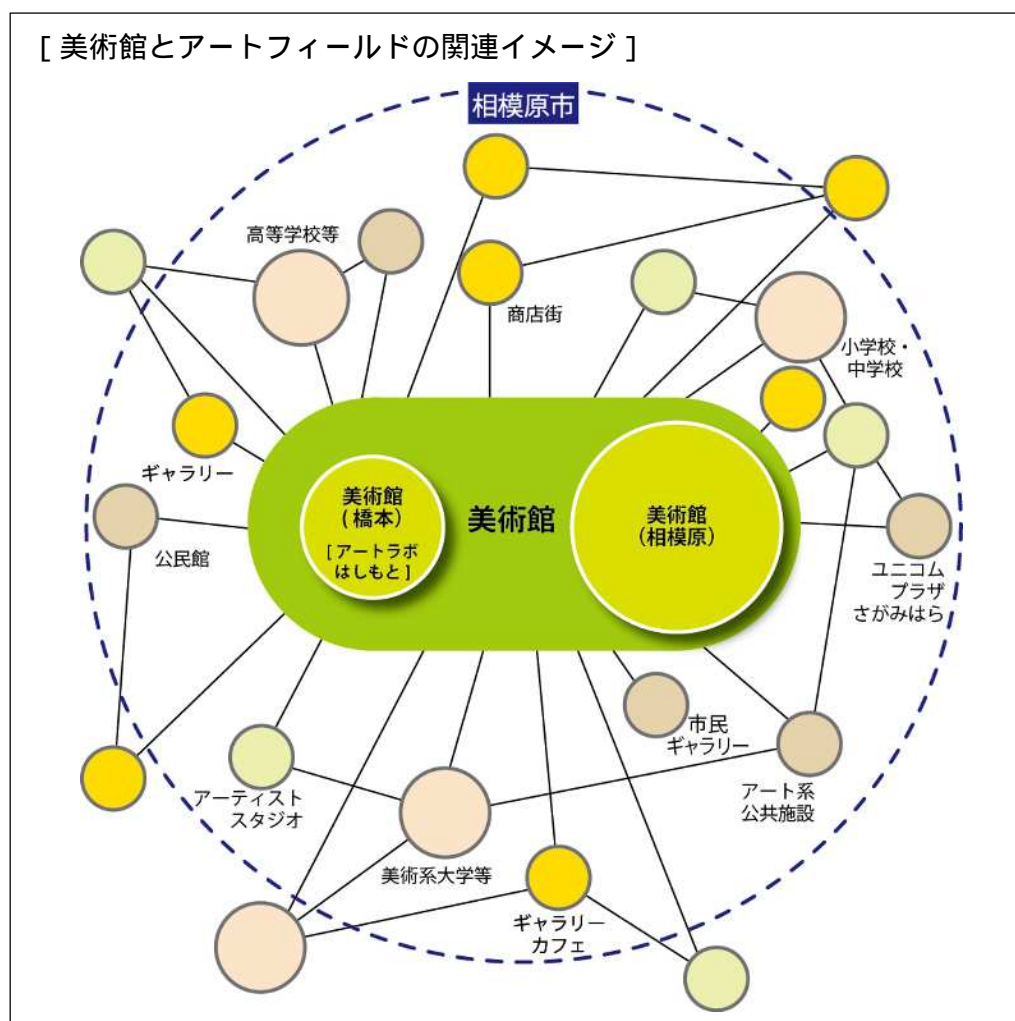
本市の美術館は、相模原市美術館基本構想における基本理念や方針、事業展開を踏まえ、収蔵美術品の活用やフォトギャラリー（写真美術館）機能の実現を図るため、調査・研究、収集・保存、展示など必要な機能を備えた芸術文化の総合拠点である「（仮称）美術館（相模原）」（以下「美術館（相模原）」という。）と、アートラボはしもとで実施している文化創造・発信・交流促進や教育普及に加え、展示などの機能を充実させた新たなアートを学び、創造する場である「（仮称）美術館（橋本）」（以下「美術館（橋本）」という。）とします。

それぞれの館がその特徴を生かした事業展開を図る一方、美術館（相模原）と美術館（橋本）は、人材交流や情報共有を着実に実施し、本市の一体的なアートの創造を実現します。

また、その活動は、施設内にとどまらず市内やその周辺地域に点在する美術系大学や社会教育施設、交流施設、民間のギャラリーやアーティストのスタジオなど、多様なアートスポットとの連携を図り、アート資源とのネットワークを構築し、アートフィールドにおいて広く展開します。

こうした活動の展開は、本市への愛着の醸成や市民の文化度の向上につながるとともに、市内外にアートを通じた本市の新たな魅力や個性などの発信が可能となることから、首都圏南西部の広域交流拠点都市としての人や企業に選ばれるまちづくりに貢献することとなります。

〔美術館とアートフィールドの関連イメージ〕



4 施設整備

(1) 基本的な考え方

美術館(相模原)は、広域交流拠点における文化創造機能を担うため、相模原駅周辺の相模総合補給廠の一部返還地に多様な作品の展示などを中心に事業展開を図る芸術文化の総合拠点として整備することにより、同返還地に併せて整備される広域交流機能や広域商業機能、業務・産業支援機能や業務・行政機能を担う施設との連携による相乗効果が生まれ、交流・生活人口の拡大が効果的に図られることから、「安心とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点」の実現に向けた更なる戦略的な展開が可能となります。

また、美術館(橋本)は、これまでアートラボはしもとが培った地域住民や地元商店街などとのネットワークを生かすとともに、本市及びその周辺の美術系大学に近接し、美大生が多く活動し、住み、行き交う橋本駅の周辺地域にあるアートラボはしもとが立地している場所に再整備することにより、これまでの経験や実績が継承され、市民との連携や交流による新たなアートを学び、創造する場としての事業展開が可能となります。

(2) 施設概要

施設	相模原市美術館	
	美術館(相模原)	美術館(橋本)
基本方針	多様な作品の展示などを行う 芸術文化の総合拠点	市民との連携や交流による新たなアートの学びと創造の場
建設地 (建設候補地)	相模原駅周辺の相模総合補給廠の一部返還地内	アートラボはしもとの立地場所
機能	調査・研究	・学芸研究室 など
	収集・保存	・搬入口・トラックヤード・荷解室 ・収蔵庫(絵画、写真など) など
	展示	・常設展示室(絵画、写真など) ・企画展示室 ・展示準備室、展示備品庫 など
	教育普及	・講座室 ・ライブラリー ・ボランティアルーム など
	文化創造・発信	・会議室 ・情報発信コーナー など
	交流促進・利用者サービス	・ミュージアムショップ、カフェ ・案内・受付、トイレ、授乳室、休憩室 など
	管理運営	・事務室、書庫、倉庫 ・機械室、電気室 など

* 諸室のイメージを次ページ以降に掲載しています。

[施設のイメージ]
美術館(相模原)

【収蔵機能】

- ・収蔵庫(本市収蔵美術品などの保管)



【文化創造・発信機能】

- ・情報発信コーナー(アート関連の市民活動の発表)



【展示機能】

- ・展示室(本市収蔵美術品の展示公開、多様なジャンルの企画展など)



- ・展示準備室
(展示に関わる準備作業や資材保管など)



【教育普及機能】

- ・講座室
(講演会・体験教室・講座などの開催)



- ・ライブラリー
(美術関連書籍などの閲覧や学習支援)



【交流・利用者サービス機能】

- ・ミュージアムショップ(美術館オリジナルグッズやアートグッズ、書籍など)



- ・ミュージアムカフェ(地場産品を生かした喫茶メニューやランチなどの提供)



美術館(橋本)

【展示機能】

- ・企画展示室
(アートプロジェクトの発表など)



- ・公開型スタジオ
(公開展示、公開制作など)



アーティストの制作過程の公開展示



子どもたちも加わる公開制作

【教育普及機能】

- ・ワークショップ・スペース
(教室の開催、市民の創作活動の支援)



- ・映像シアター
(アートに関わる発表・交流事業の開催など)



【文化創造・発信機能】

- ・会議室(アートに関わる市民の活動・交流など)



5 運営・事業推進体制

(1) 基本的な考え方

積極的な市民協働の展開

本市が美術館を「市民とともにつくる」という姿勢を示し、美術館の整備前から広く市民に美術館の存在を知ってもらい、市民の美術館に対する愛着を醸成します。

開かれた美術館

本市においては、外部評価の導入、ゲストキュレーターの起用、市民や大学などによる調査・研究、事業の企画及び運営への参画、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの視点を踏まえた整備及び運営の検討などを行い、社会や市民に対して開かれた美術館を目指します。

美術館の特殊性を踏まえた効果的な民間活力の導入

美術館は、美術作品を後世に受け継ぐ役割を担っており、収集、調査及び研究に関わる専門スタッフの存在が重要であるという特殊性があります。このため、PFIや指定管理者など民間活力の導入に当たっては、この特殊性を踏まえた検討を行います。

(2) 整備に向けた取組

計画策定プロセスにおける市民協働

美術館が市民に親しまれ、愛されるためには、より多くの市民が計画策定プロセスから参画することが必要であるため、検討委員会やシンポジウム、ワークショップなど市民協働に係る取組を推進します。

イベントの開催

美術館の整備に向けた機運を高めるため、開館前のイベントの開催を検討します。

【実施例】

- ・ アートラボはしもとや市民ギャラリーにおけるアートイベントの開催
- ・ フォトシティさがみはらにおける新たな企画展示の実施
- ・ 市域全体での大規模アートイベントの開催 など

専門スタッフを含む美術館の整備に向けた準備体制の構築

美術館の整備は、計画段階から専門スタッフ(学芸員など)の参画が必要です。専門スタッフを含む美術館の整備に向けた準備体制を構築し、事業推進を図る方向で検討を進めます。

(3) 運営における取組

職員体制や専門性及び能力の向上の検討

本市における美術文化の調査研究の成果を後世に着実に引き継ぐため、職員体制や職員の専門性や能力の向上について検討を進めます。

企画及び評価を行う第三者機関の設置

美術館の取組を支援するためのアドバイスや、客観的な評価を行う第三者機関の導入について検討します。

情報公開

美術館の活動を広く市民に周知するとともに、その客観性を担保するため、事業内容に関する情報の公開及び発信(アニュアルレポートの作成など)などについて検討を進めます。

ボランティアとの協働

美術館の事業や運営などに協力いただけるボランティアの育成や、ボランティアが主体性を発揮して活動できる仕組みの構築について検討を進めます。

民間企業との連携

美術館が運営する事業や物資に係る協力、企業協賛など広く民間企業との連携ができるよう検討を進めます。

寄附や基金の活用

本市が現在運用中の美術品に係る収集基金の活用に加え、美術館整備の機運を高めるための建設基金やアーティスト支援のための基金の設置について検討を進めます。また、市民からの寄附の在り方についても検討します。

デジタルアーカイブの導入

資料の収集管理、多様なメディアに対応した保存・活用、インターネットでの公開を含め、デジタルアーカイブの効果的な利用について、検討を進めます。

アニュアルレポート：施設の事業報告や実績などをまとめた年次報告書

デジタルアーカイブ：博物館や美術館、図書館などの収蔵品など有形又は無形の文化的資源をデジタル化して保存・活用を行うこと。

6 広報の在り方

総合的な広報方針の検討

市内及び市外へ広く美術館の存在を発信するとともに、企画展や多様な事業に関する情報を発信するために効果的な広報の在り方を体系的に構築します(V I (ビジュアルアイデンティティ)の確立及び維持、効果的な情報媒体、発信時期など)。

ポータルサイトの設置及び運営

本市の多様なアートスポットに関する情報を発信するとともに、双方向性を生かし、インターネット上でのアートに関する交流機能を拡充します。

パブリシティの活用

積極的なプレスリリースなどを行い、メディアから美術館に関する情報を広く発信されるような取組を実施します。

【実施例】

- ・効果的なプレスリリース
- ・ブログやSNS に掲載されやすくするための撮影スポットの設置
- ・ブロガーなどのインフルエンサー に対する情報提供 など

V I (ビジュアルアイデンティティ) : 美術館の基本理念や活動を視覚的に表現する書体やマークにより視覚的イメージの統一を図り、美術館の存在やメッセージを効果的に発信すること。

S N S (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) : インターネット上の交流を通してコミュニティを構築するサービス

インフルエンサー : 自身のブログやSNSなどで情報発信をすることで、他者の行動に影響を与える人物

推進に当たって

アートラボはしもとの先行整備

アートラボはしもとについては、現在の活動を継続し、機能を拡充した美術館(橋本)としての再整備を美術館(相模原)に先行して進めます。

広域交流拠点整備計画との整合

美術館(相模原)の整備については、広域交流拠点整備計画を踏まえた検討を進めます。

市民ギャラリー機能に関する検討

市民ギャラリーについては、市民による芸術活動の発表の場としてのニーズが高いことから、美術館(相模原)の施設整備と併せてその在り方を検討します。

公共施設の保全・利活用基本指針との整合

美術館の整備については、本市の施設整備の基本指針である公共施設の保全・利活用の基本指針(以下「基本指針」という。)を踏まえた検討を進めます。

また、美術館(相模原)は、広域交流拠点における文化創造機能を担うため、相模原駅周辺の相模総合補給廠の一部返還地に多様な作品の展示などを中心に事業展開を図る芸術文化の総合拠点として整備することにより、同返還地に併せて整備される広域交流機能や広域商業機能などの施設との連携による相乗効果が生まれ、交流・生活人口の拡大が効果的に図られます。

このような取組を推進することにより、「安心とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点」の実現に向けた更なる戦略的な展開が可能となることから、美術館(相模原)は、基本指針上の「まちづくりの戦略上重要な施設」として引き続き検討を進めます。

美術館の特殊性を踏まえた効果的な民間活力の導入(再掲)

美術館は、美術作品を後世に受け継ぐ役割を担っており、収集、調査及び研究に関わる専門スタッフの存在が重要であるという特殊性があります。このため、P F I や指定管理者など民間活力の導入に当たっては、この特殊性を踏まえた検討を行います。